



「あめふりくまのこ」の歌あそび（あゆみ幼稚園）

主な内容

- 常任委員会報告 ..... 2
- 奄美群島市町村議会議員大会 ..... 4
- 一般質問に5名が登壇 ..... 5
- 読者の声・編集後記 ..... 10

読者の声

「繫げていきたい」 喜禎 ルミ（湾）

人の気配を感じない……。そう思ったら、道を挟んで右にも左にも家がない。いや、正しく言えば家はある。でも、そこに人の姿がない。（ここで私の言う「家」とは、人家族の暮らしたという意味）

青森から蔵見学にいらいしたお客様を案内中、迷い込んだある集落の一角。そう、すぐこの前までは、縁側に座って夕涼みをするお年寄りの姿や、汗だくになりながら駆け回る子供達の姿があった。いや、あったであろう面影が確かにそこには残っていた。全ては「人」。人がそこに居てこそなのだ。暮らしがあがり、会話がなくなり、そして、そこにはそれぞれの意志や想いがあり、時が流れる。

ふと思いついた。以前、鹿児島のあるイベントでお会いした方の話を。「どれだけかを重ねたとしても、どこだけの人が関わり、どれだけの回を重ねたとしても、そこに関わる全ての人の求める意志と高い意識と強い想いがなければそこに未来はない。発展はない。」人口減に歯止めをかけたところある地域の町おこしに関わるその方の話は、私に強い印象を残した。

始まりは、私達朝日酒造が年に一度、島の小中学生・高校生を対象として行っている「私達の島を伝えたい」コンクールの話からだ。このコンクールは、教育委員会や各学校の先生方の御協力を頂き、今年度で四回目となる。私達は、このコンクールが、島の未来を担っていく子供達に、改めて島を見つめる機会となり、そこから新たな発見（喜界島の可能性を感じることに）が繋がればと思っている。そして、「伝えたい」という子供達の想いの中には島への愛情と誇りがたっぷり詰まっています。その先には必ず島の「未来」が描かれていくと私達は信じている。そう、進学、就職のため島を離れたとしても、いずれ島に戻り、島で働き夢を持って生きていく、その意識を子供達に

持ってもらえたら、そう願っているのだ。

私達は、蔵見学にいらいしたお客様に言葉（感想、質問）を通して喜界島の姿を様々な視点から見ることが出来る。島の観光、歴史、自然はもちろん、経済、産業のことまで。基幹作物であるサトウキビに、新しい農業（作物）へのチャレンジ、また、喜界島をオーガニックの島にと喜界島だからできる農業を考え始めた若者達。そして、島の素材を使った食品開発に、畜産、水産、更に、各集落独自のイベントや郷土芸能の伝承、音楽を通して島に活力を与える人達、等々。そう、それらの全てが喜界島の未来の大きな力になる。

そう考えた時、いつも意識するのは、焼酎屋として何ができるのかということ。まずは、「喜界島にこだわった焼酎造りを行う」こと。「焼酎造りは農業だ」と考え、十三年前から完全無農薬で、除草剤、化学肥料は一切使用せず、焼酎の原料（黒糖）のためのサトウキビ栽培を行っている。更に、二年前からは焼酎の麹米用の米作りも始め、安全安心完全有機の焼酎造りを目指す。

そして、もう一つ、「黒糖焼酎を通して喜界島を伝える」ということ。「焼酎はいつも人の輪（和）の中にあり、焼酎のある所に人が集う」これは、島に生まれ育った私の幼い頃からの記憶。だから、私達は焼酎を通して人を、出会いを繫げていきたい。そして、その中で歴史や文化等、喜界島の全てを全国へ、世界へ伝えていきたい。

そう、それぞれの動きが繋がり、何かが生み出される。島の未来に繋がるための何かが。そのためには、物理的な条件（環境）と同じだけ、そこには気持ちのある人が、そんな事をあれこれと考えている間に、一本道に辿り着いた。あふれる緑とどこまでも続く青い海と空を目の前にして、隣で感動の声をあげるお客様に、喜界島の説明をまた少し加えて、「さあ」と心に声をかけ、畑の中の長い一本道を一気に下りた。

編集後記

「たかたろこ」は島の初夏のシンボル。海のかたに浮かぶ白い雲。心が和む島の宝です。年四回の定例議会、今回は補正予算の計上が大半であった。

土と気象が資本である農業。自然との闘い、依然として厳しい状況である。台風三号、四号は事なく通過した。そのような中、農産物の新しい商品が次々産声をあげている。町民のそれぞれの立場を大事に一人が二人、二人が三人と仲間の輪が大きくなることを願うばかりです。

議会だよりは、行政、議会、町民を結び架け橋である。この原則を大事に、改めるべきは改め、補うべきは補い、町民の声を大事にして参ります。



議会広報委員 峰山 恵喜光

平成二十五年第二回定例会は、六月十七日から二十一日までの五日間開催されました。初日は、一般質問（議員五名登壇）、平成二十四年度喜界町一般会計補正予算外七件を専決処分し、繰越明許費繰越計算書（一般会計、簡易水道事業特別

会計、公共下水道事業特別会計）三件の報告がありました。平成二十五年一般会計補正予算外二件については、各常任委員会に付託しました。最終本会議には、平成二十五年喜界町一般会計補正予算外二件を可決し、追加提案された工事請負契約二件は、原案のとおり可決しました。

### 常任委員会報告

#### 総務文教委員会



委員長 外内 千里 議員

#### 議案第四十一号、平成二十五年喜界町一般会計補正予算(第二号)所管部分

地方債の補正は、臨時財政対策債の限度額の一億五千万円を一億六千五百九十九万一千円に増額するものです。

#### 【歳入の主なもの】

財産運用収入で、普通財産貸付収入五十万五千円の増額は、医師住宅と診療所倉庫の貸付によるものです。雑入の一般コミュニティ助成事業の二百四十万の増額は、昨年同様に財団法人自治総合センターによる宝くじの社会貢献事業で、集落コミュニティの整備のためのものです。

【歳出の主なもの】  
総務費の財産管理費で、需用費の二百五十万の増額は、庁舎のエアコン、トイレ、二階のサッシ等の修理のためのもです。また、役務費五十一万二千円は、廃校になった学校に残るピアノを一方所に集めるための手数料、使用不能な冷蔵庫を処分するリサイクル料です。税務総務費の委託料九十万八千円は、二十七年に固定資産評価替が行なわれるため、固定資産標準宅地鑑定評価業務を委託するものです。選挙費の備品購入費の六十万は、開票の応援ソフトの購入費です。商工費の地域文化等宿泊体験学習施設整備事業補助金の二十九万三千円は、地域振興局による事業で、事業費の二分の一を県が、二分の一を町が補助するもので、対象は小野津集落で、小野津小学校跡地を整備するものです。教育費で公民館の需用費の二百七十六万二千円、保健体育総務費の二百八十五万五千円は、中央公民館、町体育

館の消火栓が建設当時のもので古くなったため、それぞれパッケージ型に取りかえるものです。

#### 【質疑の主なもの】

コミュニティ事業の補正での計上の理由と、対象地区と選定方法、事業内容についての質疑に、事業導入の確定に伴い補正で計上となり、今年度は中熊集落が対象で、くじ引きによる選定であること。購入物品は対象品が限定されること、対象外であれば事業額が減額され、追加ができないなどの難しさがあるので、集落と協議して対応するとの答弁でした。

## 平成25年度 一般会計補正予算は 4,132万円を追加して 54億8,822万円に

#### 議案第四十二号喜界町職員の給与の臨時特例に関する条例の制定について

今回の改正により、現在百一%のラスパイレス指数を九十九%とするものです。削減内容の主なものは、基本給を行政職では一・二級は削減なく、三・四級は一%、五・六級は二%削減するもので対象者は百五名です。医療職では一・二級は削減なく、補佐主幹を除く三級以上は一%、補佐、主幹は二%削減で対象者は十一名となっております。技能労務職は一・三級は削減なく、四・五級は一%で対象者一名です。削減期間は平成二十五年七月一日より平成二十六年三月三十一日となっております。

#### 議案四十三号辺地に係る公共的施設の総合整備計画の一部変更について

八十%と交付税措置される、辺地債の対象の事業を、新たに加えるもので、排水路や、農作業道等の整備が不十分な箇所を整備するものです。平成二十四年から二十八までの五年間の、公共的施設の整備計画に「農業・林業」の施設で、事業額一億一千万、起債予定額三千六百万円を加え、事業総額五十一億五千九百五十二万円で辺地対策事業債は十八億八千五百万円となります。質疑として 本会議での議案上程のうちに、整備計画一覧表の軽微な変更についての説明がなされておらず、今後十分対応を要望するよう指摘がありました。

#### 産業福祉委員会



委員長 西野 弘 議員  
副委員長 生駒 弘

#### 議案第四十一号、平成二十五年喜界町一般会計補正予算(第二号)所管部分

#### 【歳入の主なもの】

産業振興課関係では、県補助金の農業費県補助金一千六十二万二千円は、奄美地域農業施設復旧・強化支援事業で、昨年台風被害を受けた方々へ、県から二分の一の補助事業です。保健福祉課関係では、国庫負担金の社会福祉費国庫負担金二十万は、育成医療費負担金で、障害がある児童や疾患を放置すれば将来障害を残すと認められた児童で、手術等の治療で改善機能の維持が保たれるなど確実な治療効果が期待できるものに対して、国が二分の一負担するものです。国庫補助金の児童福祉補助金七十九万八千円は、保育士等処遇改善特例事業で、保育士の平均勤続年数が長いほど、上乗せが多くなるように処遇改善を図るためのものであります。県負担金の社会福祉費負担金十萬は、育成医療費負担金で、県が四分の一を負担するものです。住民課関係では、県補助金の地域環境保全対策費補助金一千四十八万八千

円は、海岸漂着物地域対策推進事業補助金で、十分の十の補助率であります。【歳出の主なもの】  
産業振興課関係では、農業振興費補助金一千六十二万二千円は、奄美地域農業施設復旧・強化支援事業補助金で、畜産農家六件、ハウス農家四件、平張り農家四件、計十四戸に、農業共済に加入することを前提に台風被害を受けたところの補修費の二分の一を補助するものです。加工販売施設運営費の需用費三十五万三千円は、ボイラー二カ所の修繕料と二十万七千円はコンテナ等の備品購入費です。保健福祉課関係では、障害者福祉費四十万は、育成医療費給付費で、内訳は国が二十万、県が十萬、町が十萬円です。質疑として、該当者は何名かとの質疑に対し、二名とのことであり、児童福祉総務費百五十一万八千円は、旧湾幼稚園で行っている児童発達支援事業で、子育て支援に伴う研修旅費十九万六千円、教材費等十三万五千円、旧湾幼稚園の修繕費十八万八千円、布積み木等の備品購入費二十万二千円、保育所運営費七十九万八千円です。質疑として、保育所運営費七十九万八千円は、保育士の処遇改善で秀心会に支出するわけですが、どれくらい給料はふえますかとの質疑に対し、第一保育所に四十二万六千円、第二保育所に三十七万二千円を支出しますが、ど



審査する常任委員会

# 奄美群島市町村議会議員大会

## が天城町で開催される

第五十六回奄美群島市町村議会議員大会が五月十六日、各市町村の議会議員及び事務局職員総勢百五十六名が参加し、天城町B&G海洋センターで開催された。議長会や各地区から提出された七議題の提案事項説明が行われ、全会一致で採択した。

奄美群島においては、国の特別措置法に基づく各種の振興策が講じられ、交通基盤の整備や産業の振興、生活環境の整備などさまざまな面にわたり相応の成果を挙げてきたが、外海離島という厳しい地理的・自然的条件下にあって本土との間の所得水準をはじめとする経済面における諸格差や人口の流出など解決すべき多くの課題を抱えている。

一方、奄美諸島は、亜熱帯性・海洋性の豊かな自然、特色ある貴重な動植物、個性ある伝統・文化など大きな発展可能性を有しており、他の地域にない魅力と特性を生かした個性豊かな島づくりを実現するためには、国の更なる財政支援が必要不可欠であり、引き続き、法に基づく特別措置を延長し、内容の充実強化を図らなければならない。

今後は、奄美群島の住民や企業等も参画し、奄美群島十二市町村によって策定された「奄美群島成長戦略ビジョン」に基づく自立的発展に向けた各種産業振興の取り組みを進めながら、定住環境の整備や安定的な経済生産活動を支えるために必要な各種社会資本・産業基盤の整備を図り、世界自然遺産登録を視野に入れた「人と自然が織りなす癒しの島づくり」を推進していかなければならない。

ここに、第五十六回奄美群島市町村議会議員大会にあたり、市町村議会人としての使命と職責を深く自覚し、平成二十六年以降の奄美群島振興開発特別措置法制定実現のため、総力を結集することを宣言する。



第56回奄美群島市町村議会議員大会

## 町政のここが聞きたい

# いっぱい質問

第2回定例会で5名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



乾 和夫 議員

### 質問 記帳所について

一旦緩急ある場合、役場庁舎内に記帳所の開設は可能か伺いたいします。

町長

日本国民として国を思う心は一つということ、今後重要な案件の際は役場の庁舎内に開設できるよう対応したい。

### 質問 道州制について

平成の大合併の荒波を敢然と乗り越えてきた本町にとって道州制が敷かれ、奄美は一つとなれば一島一町の独立した自治体として生き残れなくなるのではないか危惧するところ、そこで、道州制が導入された場合、本町はどうなるのかお尋ねします。

町長

九州地区町村長会は、道州制の導入について反対する決議を行ったところです。道州制は国のあり方を変える大きな問題であるにもかかわらず、平成の大合併の検証や国民的議論のないまま、また、住民に最も身近な行政を扱う者として、道州制の実態の見えないまま導入されることを強く懸念しているところ、今後も町村長会として、また、町独自の立場からも調査研究を継続してまいります。

### 質問 TPPについて

TPPに参加した場合に、本町農業の将来性について三点お尋ねします。  
① サトウキビや子牛の価格が下落するのではないか。  
② 価格維持、向上に本町として独自の施策はあるのか。  
③ 地産地消の仕組みに影響が出るのではないか。

町長

TPP参加により関税撤廃された場合、サトウキビに関しては、砂糖の品質格差

## 請負契約

▽平成二十四年度公営住宅整備事業新築工事(湾宮戸団地C棟)の工事請負契約

☆契約金額 七千二百四十五万円

☆契約の相手方

鹿児島県大島郡喜界町湾三百十三番地 中村建設有限公司

代表取締役 中村 照彦

▽平成二十五年度西部地区簡易水道統合事業西部浄水場施設棟建築工事の工事請負契約

☆契約金額 一億五千四百四十万円

☆契約の相手方

鹿児島県大島郡喜界町早町百二十二番地 株式会社峰山建設

代表取締役 峰山 恵一

## 陳情の審査結果

提出者	件名	所管委員会	審査結果
兵庫県伊丹市 井田 敏美	違法な臓器生体移植を禁じることを求める陳情	産業福祉	継続審査

がなくすべて外国産に置き換わり減少率100%と示されている。肉用牛に関しては、三等級以下が外国産に置きかわり、関税撤廃で畜産農家の経営安定対策の財源がなくなると考えられており、影響額としては一千九百九十二億円の減少となっております。黒毛和種の肉用牛経営よりも、酪農経営において大きな影響を及ぼすことになると言われており、喜界町で取り引きされている黒毛和牛の子牛価格が下落するということは、まだまだ不透明な状況です。

場や小売り競争権利者の県経済連など関係機関と連携をとり、価格維持のため関税撤廃の除外品目として取り扱うよう要請活動を行っていく必要があるのではと考えております。  
④ 食の安心安全が求められている今日、消費者側が何を求めるのが大きく影響してくるのではないかと考えられます。

### 質問 行政改革について

本町においても三月議会で六億円の増額補正と、二十五年度予算が定まったところです。この大型予算が公共工事の減少に悩まされてきた本町の土木業者、建築業者にとっても、干天の慈雨、朗報となっていることと思っております。

そこで、公共工事に対する町民の信頼の確保と、これを請け負う業者の健全な発展を図るため三点をお尋ねします。

- ① 公共工事や物品調達などの情報公開を徹底することはできませんか。
- ② 随意契約条例の制定が必要となってくるのではありま

せんか。

④ 島内業者の育成と島内の経済流通に資するとの観点から、地域維持型契約方式の積極的な活用を図れないか。

【答弁】 町長

① 現在年度ごとの工事発注計画や入札執行計画については、各工事担当課において閲覧という形で公開しております。開かれた行政運営は重要であると認識しておりますので、今後は発注計画や入札情報などをホームページにも掲載し、情報を公開していきたいと考えております。

② 喜界町契約規則に随意契約の規定があります。これは契約の種類に応じて定められた額を超えない範囲で随意契約をすることができ、ことや、一定の額以上は指名推薦委員会の推薦する者のうちから見積書を徴することなどを規定しております。随意契約は例外的に許される契約でありますので、理由を精査し、公平性のもと、規則を順守してまいります。

③ 地域維持型契約は、除雪、

災害応急対応、社会資本の維持管理など、地域の維持に不可欠な事業に限り地域建設業者と契約するものでございます。本町では、台風など災害時の復旧につきましては、建設業者の皆様との協力を得て、早急に対応しております。

また、公共工事や物品購入については、島内業者と契約することを第一に考え、区分を分けた分割発注など工夫をしており、今後とも地域業者の技術力、経営力の向上を図りつつ、地域業者優先の契約に努めてまいりますと考えております。



外内 千里 議員

### 少子化問題 Q&A

本町も少子高齢化により、今後人口の減少率が加速すると思われませんが、少しでも歯

況にあります。

現在ののぞみ幼稚園の園児数は十名であります。幼稚園では保護者に対して、幼稚園教育の内容について、園だよりなどを使って広報し、入園者の掘りおこし等の努力をしているところでもあります。今後はさらに運動会などの行事を通して、のぞみ幼稚園をアピールして、入園者をふやす取り組みをしていくことが大切であると考えております。今後とも二園体制が維持できるよう、幼稚園教育の重要性を鑑みて、まずは園児数の確保の努力をすとも、幼稚園教育の充実に取り組みでまいりたいと考えております。

【答弁】 町長

保育料の無償化の取り組みについてですが、天城町では財源として過疎地域自立促進特別措置法、いわゆる過疎法の非公共事業、過疎債を充当しているようですが、本町では今年度は限度額全額他の事業に充当しているのが現状です。事業の導入及び財源については、今後の検討課題とさせていただきます。

どめをかけなければなりません。そこで、次の五点についてお尋ねいたします。

【質問】 県は今年度事業に県

指定の医療機関がない県内離島在住の不妊治療受診者に対し、交通費、宿泊費の三分の一を助成する離島地域不妊治療支援事業を織り込み、県と市町村で三分の一ずつ補助するとなっております。そこで離島地域不妊治療支援事業の具体的な内容と、現在の町内での対象者を把握されているのか。また、今後の事業の利用計画について、お尋ねいたします。

【質問】 今年度の幼稚園の入

園状況を見てもみますと、今後二園体制が維持できるのかと危惧するところです。保育所との兼ね合いがあり、幼稚園教育と保育所の教育の違いや、保育時間や預かり保育の問題もあるかと思いますが、見解をお尋ねいたします。

【質問】 天城町が取り組んで

いる少子化対策について、保育料の無料化があります。保護者から納入される保育料を



生駒 弘 議員

### 農業振興 Q&A

【質問】 昨年から、台風や干ば

つに加え、メイチュウによる被害で、二年連続の過去最低水準の収量でありました。今年も収穫後の株出しを中心にメイチュウ被害が発生しており、今年の収穫も心配されるのであります。

そこで、現在までの島全体の被害状況と、メイチュウ被害対策として面積に応じた薬剤の助成が、既に無償で配布されておりますが、今後どのような対策をされるのか、お伺いいたします。

【答弁】 町長

メイチュウ被害について現状では詳細な把握はできておりませんが、昨年度よりかなり被害がふえているとの報告を受けているところで、こうした状況を踏まえ、関係機関と連携して、メイチ

年度末に全額還付するものです。本町でもこのような事業を導入し、保護者の負担を軽減できないか、お尋ねいたします。

【質問】 風疹に妊娠初期の女

性が感染すると、赤ちゃんの目、耳、心臓などに障害が出る先天性風疹症候群にかかるおそれがあります。今年度の患者数は例年より多く、患者の八割が二十代から四十代の男性で、妊婦への感染が危惧されており、本町の現状と対応について、見解をお尋ねいたします。

【質問】 本町の子育て奮闘中

の家庭の現状を見ますと、少ない収入で夫婦共働き、家計のやりくりをしていくのが大変であると思います。今後の少子化対策、子育て支援をどのような施策で進めていくのか、お尋ねいたします。

【答弁】 保健福祉課長

県の不妊治療に伴う交通費等の助成制度は、離島地域不妊治療支援事業実施要綱として平成二十五年五月二十一日に施行され、四月一日にさか

ユウ防除対策を進めているところでございます。

【答弁】 産業振興課長

今期のメイチュウの被害については、農家への聞き取りや現場状況を確認したところ、特に小野津、志戸桶、城久地区が、昨年と比較して被害が大きい状況ではないかと思っております。詳細な匹数や面積については、農業共済の共済加入率が低いため、被害状況の詳細については把握ができていない状況であります。

メイチュウ対策については、生産農家と一緒に防除法を考えていきたいと思っております。今後、生産回復を行っていく上で、県や農協、生和糖業、生産者組織代表、農業開発組合、町など関係機関と生産者と連携を行いながら、メイチュウの防除対策も進めていきたいと思っております。

【質問】 雇用の創出 Q&A

【質問】 建設業も仕事が少ない、仕事をしたいところがない人たちのために、また、昨年の台風の影響で、ほとん

のほって適用されます。補助の内容は、指定医療機関のない県内有人離島に住所を有し、県から特定不妊治療費の助成を受けた夫婦を助成対象として、特定不妊治療を受診する際の交通費と宿泊費を助成する市町村に交付するものです。

これに伴い、町も今月中に要綱を制定し、四月にさかのぼり適用する予定です。補助基準額は県と同じく交通費が、喜界鹿児島間の船賃もしくは航空機運賃で、これは一回の治療につき九往復までです。宿泊費が一泊五千円の十五泊までとする予定です。実際に不妊治療を受けた方は、昨年度一件となっております。制度については、広報紙や防災無線等で町民に周知をしてまいります。

【答弁】 教育長

子育てがしやすい環境をつくるという喫緊の課題から考えれば、夫婦共働きの家庭は共働きができる環境として保育所を活用し、特に支障がない家庭は幼稚園を活用するという今の状況は、保育所と幼稚園がそれぞれ役割を分担する形でお互いに補完し合う状

どの農家の家計は逼迫しており、大変な思いで今年の収穫へ向けて農作業をされています。農閑期に合わせて、農家の家計を助けるような、道路の草刈りなどの仕事をつくり出せないものか、お伺いいたします。

【答弁】 町長

雇用をつくり出すには、企業誘致を代表とする外からの力をかき集める方法と、地元で事業を起こす、いわゆる内発型といわれるのがあります。内発型は企業を起こす意欲のある人が必要でございます。喜界産の農産物を活用した、いわゆる六次産業の可能性は十分にあり、これを推進したいと考えております。また、農業や水産業に参入する若者を育成することも雇用効果があり、これらも着実に進めていきたいと考えております。道路の草刈り等、臨時の雇用の場という話ですが、現在、埋蔵文化財の発掘調査に百数十名の雇用が臨時的にあり、当面はその状況でいきたいと思っております。

## 景気対策について

**質問** 島の景気対策として、平成二十一年から商工会に補助金を出して取り組んできたプレミアム商品券事業を、なぜ突然廃止したのか。農家が一番大変なとき、また、電気代、ガソリン価格の高騰など、町民の家計を圧迫し経済環境が厳しいときこそ、対策を打つべきではないかと思いますが、町長の見解をお伺いいたします。

**回答** 町長

平成二十一年度に地域活性化交付金事業を活用し、単年度事業として実施いたしました。商工会からの強い要望により、平成二十二年年度から昨年度まで、一般財源から商工会に補助金を交付して実施してまいりました。

現在、過去四年間の事業実績を精査しておりますが、その効果が限定的、利用する商店も限定的、商品券を使う方も限定的ということもあることや、財政状況等も勘案しながら、今後の事業実施については、商工会と協議、検討を行なっているところです。



安田 英次郎 議員

## 経済振興策について

**質問** 複合型経営を推進するのとありますが、どのような新たな措置をされるのかを具体的に示していただきたい。

**回答** 町長

本町は耕地全体の八十%、農業生産額の七十%がサトウキビ作でございます。このようなことから、今年度から強力に園芸・畜産振興を図る複合経営をさらに推進啓発するため、町単独事業での平張りハウスや園芸関係の資材補助、営農支援センターでの研修生の増員、肉用牛新規参入者の畜産農家での研修制度や、簡易牛舎補助を実施し、関係機関一体となり、サトウキビとの複合経営を推進し、農家減少の歯どめを図っていききたいと考えております。

## 新規就農について

**質問** 現在奄美市において、新規就農者の激励会が行なわれているが、町全体で激励会はできないか。

**質問** ② 新規就農者の自己取得面積五十アールの見直しを検討するべきではないか。

**回答** ① 町長

喜界町において激励会を行うことについては、どのような形で開催するのか、認定農業者の会など関係者と協議をしてみたいと考えております。大島支庁で行われる新規就農者励まし会の会への参加についても、他の町村との交流もありしますので、引き続き応援をしていきたいと思っております。

**回答** ② 農業委員会事務局長

平成二十一年十二月施行の改正農地法により、農業委員会が農林水産省令で定める基準に従い、市町村の区域内の全部または一部について、これらの面積の範囲内で別段の面積を定め、下限面積として

設定できることになりました。六月の農業委員会定例総会に、下限面積、別段面積の設定または修正の必要性について、議案を提出しておりますので、農業委員の判断を仰ぎたいと思っております。

**質問** 本町の宿泊施設は、シングルルームが少ない等、旅行者のニーズに答えられていない。今後、奄美自然遺産登録された場合など、交流人口がだんだん増えてくると思われ、またいろんな大事な会議があつても、喜界町だけが宿泊施設がないから、もう一日で帰っていただきましょうという形では、今後の喜界町の経済の発展のためにもならないのではないかと思っておりますので、今後どのような対応をするか伺います。

**回答** 町長

民間宿泊施設の拡充については、今後の観光動向を見きわめながら、経営者が判断、検討して行くことになると思われますが、町としては旅館

## 定住促進について

**質問** 本町における、島外業者が経営規模拡大を行う際に、できるだけ負担を軽減できるように租税特別措置法を円滑に活用し、特別償却制度や地方税の減免等の優遇措置が受けられるよう支援してまいりたいと考えております。

**回答** 町長

定住促進に關しましては、奄美群島広域事務組合が中心となり、平成二十五年年度からUIOターン支援体制構築事業を実施しております。その中で、昨年度からは移住を検討している方に対し、移住に向けての下調べを円滑に行えるように支援する移住体験ツアーや、長期滞在支援プログラムを実施いたしました。

本町では移住体験ツアーに二名、長期滞在支援プログラムに一名の参加があり、農身体験や集落行事への参加、島歩き、地元住民先輩移住者との交流などを実施いたしました。

実態調査方法など検討したいと思っております。

た。参加者三名のうち二名が既に移住しており、喜界島の魅力を十分に伝えることができたのではないかと感じております。

これらの取り組みについては、今年度も継続して行い、定住促進を図りながら、あわせて集落区長の協力を得て、空き家調査を実施し、定住促進住宅として活用することも検討していきたいと考えております。

(注) Oターンとは①地域居住者のこと



峰山 恵喜光 議員

## 生鮮食料品(野菜)の島内自給の現状と課題について

私の農家の聞き取りやアンケートで野菜の島内自給の具体的な課題が見えてきました。一点目、化学肥料や農薬を使わないでも生産することが多

くの人に広めていくには、どうすればよいか。二点目、安全安心な食料を生産するために、堆肥の入手に苦労している農家が多い。三点目、家庭菜園で自家用野菜を栽培している農家を、一人でも多くやすにはどうしたらよいか。以上の課題から次の点についてお伺いします。

**質問** ① 栽培農家の実態はどうか。

**質問** ② 主な栽培品目等は何か。

**回答** 町長

①栽培面積は家庭菜園から十アール規模で栽培している農家まで幅広く確認しております、実際の栽培農家数については、把握できないのが現状です。出荷先についても、島内各スーパーでの販売は勿論最近では、集落内で新たな直売所の設置も行なわれており地産地消に対する意識が高まっております。感じております。

②栽培品目については、キャベツ、人参、玉ねぎ、キュウリ等の消費の高い野菜か

ら、ふだん草、らっきょう、バジル等、珍しい野菜まで含めて約三十種類の栽培・出荷を確認しています。

## 安全な食料を生産するための土壌の実態について

**質問** ① 土壌分析結果はどうか。

**質問** ② 土壌改良の方策はあるか。

**回答** 産業振興課長

①現在、農協喜界事業本部トマト部会で、鹿児島県の農林水産物認証制度を取得しており、県の協力のもと土壌分析を行い、結果に基づいた指導を行っております。他品目についても、周知推進を行っていますが、課題も多く、今後、課題解決に向けて努力してまいります。

②土壌改良の方策としては、耕地関係の土層改良事業の活用や、また今年度から町単独の新規事業として、緑肥の助成を行っており、また、畜産農家との連携で牛ふんの活用をしてもらい、

## 島内自給の主な阻害要因について

**質問** ① 実態調査の結果はどうか。

**質問** ② 課題解決のための方策はあるか。

**回答** ① 産業振興課長

島内自給野菜の栽培農家に対する具体的な実態調査については、今まで行われていないのが現状でありますけれども、聞き取りでは、赤連の直売所でおおむね三十軒ほどの農家が生産しておりますし、また最近できた荒木の直売所でも、十名の生産者の名前が記入されて、販売されております。

また、町内のスーパー等でも、四カ所で地産地消コーナーを設置して販売しております。今後、地産地消を推進していく中でも、島内自給野菜も重要な品目でありますので、

次の議会は、9月上旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

●お問い合わせ先 TEL65-1115

次回  
定例会